



お正月が近づくと、なぜか食べたくなるお餅。その地域や家庭によってさまざまな食べ方があります。(写真はイメージ)

〈第九十回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし

すすはらい

12月の第1日曜日ごろは西風も少なく、穏やかな天候の日が多かった。だから、すす払いをするには最も適していると思われたが、私の家では12月25、26日ごろすすはらいを行なった。その頃は雨風が強くなった。

朝飯が済むと、霜とけでぬかるむため、わらが敷いてある庭に出て、わらの上にむしろをいっばいに敷きつめた。家の中のものを全部を出すのである。一番かさむ布団を真っ先に押し入れから出し、縁側から敷いた、むしろの中ほどから積み上げる。近いと、他の物を出すのに邪魔になるし、遠いと片付けるとき容易でない。手拭をマスク代わりにし、鼻の下だけ真っ黒になっている。

真冬だというのに大汗をかき、息も絶え絶えといった状態で外に出る。手拭が真っ黒で鼻をかむと真っ黒の鼻汁が出る。小休止の後雨戸をあける。もうもうとたっているほこりが落ちていたら家の中の掃除だ。大きなごみはほうきで掃き、その後、床板はぞうきんがけだ。午後になると日が落ちるのが速い。西風も強くなる。ほこりが舞い、寒さもやってくる。そうならないうちに終わさなければ、と気は急ぐが、体は疲れて鈍くなる。

愚痴も出るが毎年、日暮にはどうにか片付いた。

「あんこのとりぐるみ」と「からみ餅」

暮れになると正月を迎える準備で何となく忙しい。ましておおみそか間近になると障子張りや、すす払い、煙突掃除など、心せわしくなる。しめ縄作り、門松立ては一夜飾りは縁起が悪いといって30日に作って飾り付け、餅つきは30日までの良い日を見て、一日にうす四升ずつ、鏡餅、のし餅、粉餅、のり餅などをついた。何回ついたことだったか、もち米をといでいるうちに、井戸の水がかるるほどだった。

最初の一うすは試しつき、2回目に鏡餅(お供え)を15組作った。鏡餅は床の間様、大神宮様はじめ、年神様、えびす、大黒様仏様、かまど様、湯殿様、井戸神様、便所様、物置神様、その他5か所の稲荷様へ供えるためである。さらに別に予備として1組を用意した。ついた餅はめん板に乗せてのぼし、ござの上に乗せ替えて凍らないように布で覆った。餅つきも夜の夕食は「あんこのとりぐるみ」と「からみ餅」、そのおいしかったこと。おおみそかの手打ちそばも自家製で格別の味であった。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
(平成7年3月31日発行「邑楽町の盆と正月(第五集)あすへひとこと」)より一部抜粋

ひとりごと From editors

▶パートナーの小谷が初となる特集記事に挑戦。必死に特集と向き合う姿に6年前の自分を重ねていました(笑)。さて、私も同行したクリーンプラザの内部撮影。ごみピットの上からの撮影は「カメラ落としたら…」と足がガクガク。そのスケールの大きさを写真で感じてください▶トンガ王国との「共生社会ホストタウン」を目指す取り組みは、交流の始まりとなるセレモニーが行われました。その撮影の中で、トンガ王国関係者のかたがたをパチリ。初めは良い表情が出せず…すると通訳のかたが「Mali mali(マリマリ)」と教えてくれました。おかげですてきな笑顔の写真に。トンガ語で「笑顔」という意味でした。これからはマリマリの伝道師、もとい、笑顔の伝道師として頑張ります。(本澤)



Photo 飯野祐司(記録ボランティア)



秋の終わりに
(おうら中央公園)



広報おうら

ORA TOWN Public Relations

令和2年12月号 No.651

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692(住所記入不要)

☎0276-88-5511(代表)

☎0276-47-5007(企画課直通)

☎0276-89-0136

☒ <https://www.town.ora.gunma.jp>
koho@swan.town.ora.gunma.jp

おうらお知らせメール

配信を希望する人は、右のQRコードから、ご登録をお願いします。
☒ <http://cc9.easypocket.jp/QR-177/P-C>
☒ <http://cc9.easypocket.jp/k/> (携帯電話)



(PC・スマホ)



(携帯電話)

UD FONT
by MORISAWA

この広報紙は、見やすいユニバーサル
デザインフォントを採用しています。



この広報紙は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。